

2 保護司の活動に関するアンケート調査の結果

今回の実態調査においては、保護司の活動実態や、活動に携わるに当たって感じている不安や負担などを明らかにし、今後における保護司活動への指導・支援の充実等、関係行政の改善に資するための基礎資料を得ることを目的として、保護司の方々にアンケート調査を実施した。その結果、次のようなことが明らかとなった。

なお、アンケート調査の結果については、令和元年12月27日に公表^(注)している。

(注) https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01hyoka02_191227.html 参照

【調査の概要】

調査の対象：全国の保護司4,700人 有効回収数4,001人（回収率85.1%）

抽出方法：全国の保護観察所管内（函館、旭川及び釧路保護観察所管内を除く。）から原則として、i) 更生保護サポートセンター^(注1)の設置の有無、ii) 平成30年3月31日時点の保護司一人当たりの担当件数（保護観察事件数及び生活環境調整事件数の合計（保護観察官が直接担当しているものを除く）÷保護司現員数）により保護区を選定し、選定した保護区から、経験年数の区分（6年以内、6年超12年以内、12年超）ごとに一定数の保護司を無作為抽出^(注2)した。

(注1) 保護司会が組織的に処遇活動や犯罪予防活動を行うための地域における活動拠点であり、保護観察、生活環境調整等の処遇活動に対する支援（面接場所の提供等）、地域の関係機関・団体との連携の推進等の機能を有する。

(注2) 無作為抽出については、保護観察所に依頼した。

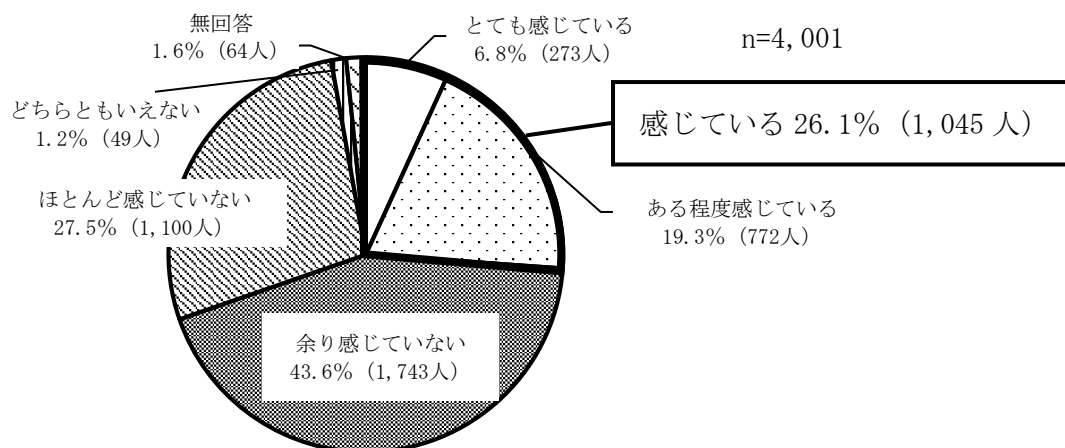
調査事項：保護観察対象者への処遇活動に関する事項、更生保護サポートセンターに関する事項、地域別定例研修^(注)に関する事項等

(注) 実務上必要な知識・技術の全般的な水準向上を図ることなどを目的として、保護観察所が保護司全員を対象に原則保護区ごとに実施している。

【主な調査結果】

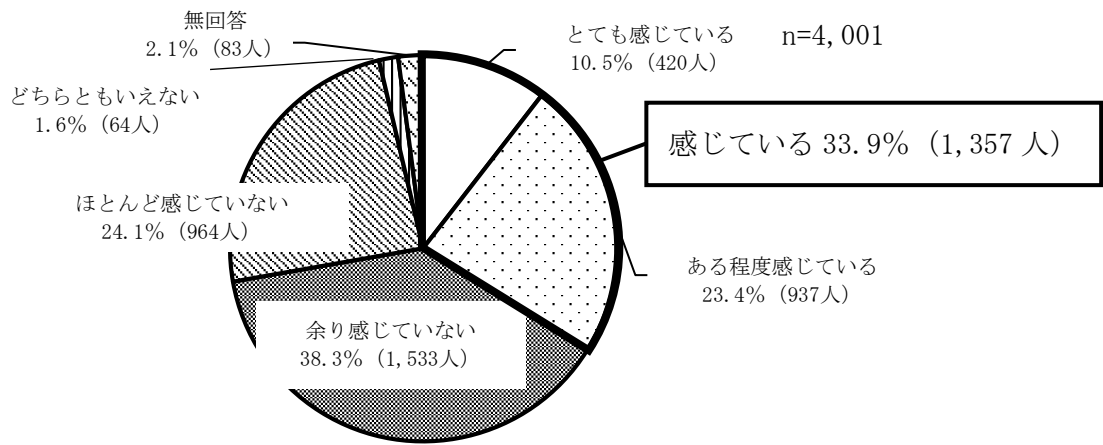
○ 約26%の保護司が、保護観察に関して、一人で面接することに不安・負担を感じている。

図2-① 一人で面接することに対する不安や負担



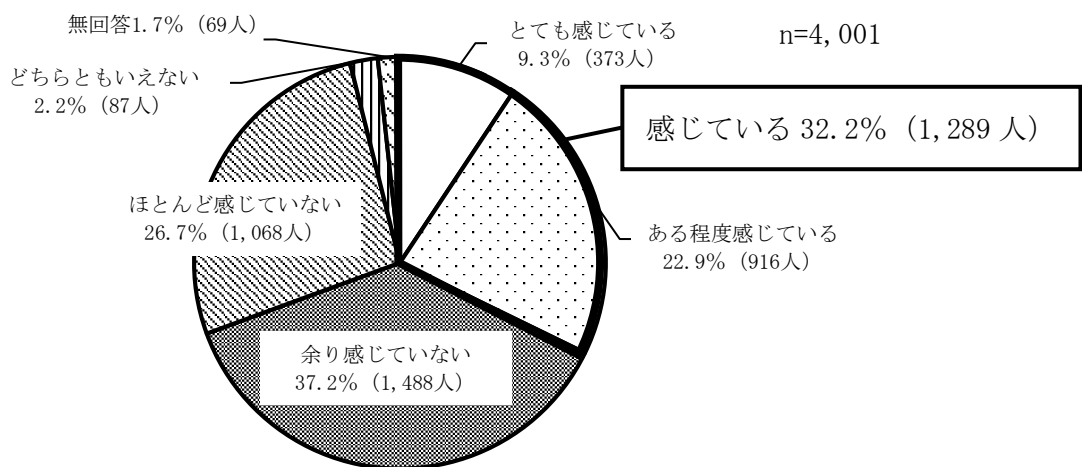
- 約 34%の保護司が、保護観察に関して、面接の経験が少ないことに不安・負担を感じている。

図 2-② 面接の経験が少ないことに対する不安や負担



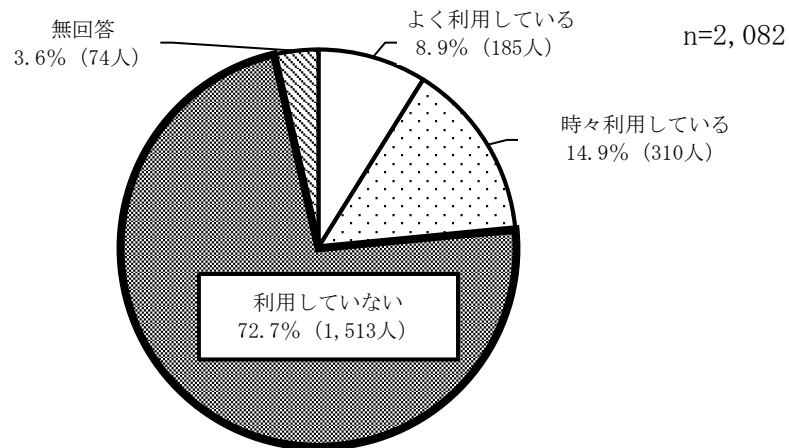
- 約 32%の保護司が、保護観察に関して、保護観察対象者との自宅以外の面接場所の確保に不安・負担を感じている

図 2-③ 保護観察対象者との面接場所（自宅以外）の確保に対する不安や負担



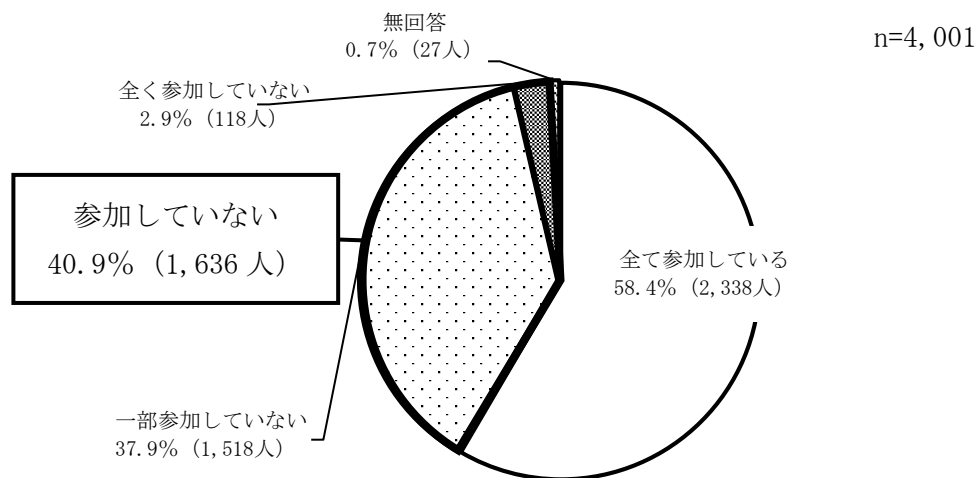
- 更生保護サポートセンターの設置以降に保護観察事件を担当している保護司の約 73%が、保護観察対象者との面接場所として同センターを利用していない。

図 2-④ 保護観察対象者との面接での更生保護サポートセンターの利用状況



- 約 41%の保護司が、平成 29 年度及び 30 年度に実施された地域別定例研修に参加していない。

図 2-⑤ 地域別定例研修への参加状況（平成 29 年度及び 30 年度）



なお、こうしたアンケート調査の結果については、後述する「3 調査結果及び分析等」において、実地調査の結果と合わせて分析等に活用したところである。